

まおいスローライフ創出プロジェクト

まおい地域のスローライフを支える住まいとまちづくりプロジェクト	...	1
長期遊住・移住システム検討プロジェクト	...	10
地域資源活用テーマコミュニティ育成プロジェクト	...	18
複合型地場産業担い手育成プロジェクト	...	24

報告書

2007年3月1日

1. まおい地域のスローライフを支える住まいとまちづくりプロジェクト

(1) 本プロジェクトの目的と実施方法

1) プロジェクトの目的

本プロジェクトは、まおい地域における田園型スローライフの実現を求めるニーズに対して、()既成市街地における未利用地や既存ストック(北海道住宅供給公社が開発した南幌町のみどり野団地、集合住宅などを含む)、()まおい丘陵地の住宅地化が進むエリア、を対象に、専門家や行政、地域住民、地元住宅業者、学生などによる「(仮称)まおいの住都再生研究会」を設置し、ワークショップを実施(2回)しながら、“住まいとまちづくりの連携”した地域イメージとその実現化方策について検討するものである。

2) プロジェクトの実施方法

現地視察、行政担当者(企画・住宅・都市計画)へのアンケート及びヒアリングによる“まおい地域”における住まいとまちづくりの現況と課題、地域イメージ、実現化方策の「枠組み(案1)」の整理

行政担当者との協議による「(仮称)まおいの住都再生研究会」の構成メンバー候補の検討・公募・選出・委嘱

ワークショップの実施(1月17日、2月7日、2回、10~20名/回×2回)
)現地視察(雪あり環境)「枠組み(案1)」の提示、意見交換
)1回目のWSの意見を反映した「枠組み(案2)」の提示、意見交換

「まおい地域の住まいとまちづくりの連携にむけた基本的な考え方」のとりまとめ

(2) 研究会における協議結果のまとめ

1) まおい地域における住まいとまちづくりの実態と課題		2) まおい地域における「住まいとまちづくりの連携」にむけた基本的な考え方 “住まいとまちづくりの連携”した地域イメージ 広域連携による実現化方策(制度・事業、推進体制) 最初の一步(トリガープロジェクト)			
長沼町	<p>行政(第1回研究会) 住マス・公住ストック計画をもとにした公営住宅の縮小建替を推進。田園居住の誘導には、豊かな環境や景観に配慮するルールづくりが必要で、住民を交えて勉強会を開催中。</p> <p>住民(第2回研究会) 【16区まおい丘陵居住者】 移住者の方が多い地域で、自然資源や静けさ、安い地価などが魅力だが、自然破壊となっていることもあり保全対策も重要。・農家と移住者のコミュニケーションの方法が異なり不十分で、移住者のための情報把握(地域マップづくり)などが課題。・地元で活躍している若者も相当いると感じる。・山中なので、自宅までは私道となっている場合があるが行政による除雪サービスが当然と考えている人もいる。</p> <p>企業等(第2回研究会) 【建築設計業】 ・移住者の住宅は、意識のある方を除けば、ほとんど通常の住宅と変わらないため、景観や環境を重視しながらのスローライフにふさわしい住宅について考えなければならない。・地域内の設計・建築ニーズに関して、地域内では応えられず、千歳や札幌のハウスメーカーが参入しているため、地元業者が受注できるような“つて”が必要。</p>	<p>長沼町(第1回研究会) 本町では、公営住宅入居は抽選で困難であるが、民間主体で住宅供給が図られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少を下支えするための政策が必要だが、定住人口の現状維持が大きな課題。 ・移住のスピードは鈍っている中、丘陵地帯への居住ニーズは多く、まちなか居住への関心は薄い。 ・コンパクトなまちを目指しているが、丘陵地帯への居住誘導は必要と認識。 ・まちなか居住や丘陵地帯居住のあり方については現在検討中だが、まちなかの魅力づくりは難しい。 <p>-----</p> <p>由仁町(第1回研究会) 広く、ゆったりとした環境の提供は、今後も推進予定だが、長期的には、定住者化した後の対策(高齢化に伴う移動困難対策、福祉・医療対策など)が必要かも。</p> <p>-----</p> <p>栗山町(第1回研究会) 働ける、動けるうちは丘陵地域に居住し、高齢になってまちなかに移住するという政策も必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み替えの提案などを不動産会社が行うことに期待。 ・例えば、商店街の空き地に、民間企業が主体で、高齢者向け住宅などをつくれないうか。 <p>-----</p> <p>南幌町(第1回研究会) コンパクトなまちづくりのため、郊外部に移住が進むとインフラ整備などが負担。景観や農地を求めて移住する人は、基盤整備区域外を求めることが懸念される。コミュニティの再生については、都市計画の観点でどうバックアップできるか。土地の代金が下がればニーズはあるので、下げるしくみが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの政策で83%が持ち家で、転勤のある勤労者世帯の民間賃貸住宅が少なく、既存ストックの活用方法が課題(相談窓口、家賃程度で戸建住宅が購入可能なしくみ)公住需要は多く、入居困難(5~6倍)で、抽選に外れた方の家賃補助、民間賃貸住宅建設促進なども課題。夕張太で、農地の再編を絡めて宅地開発・分譲を実施し、平成8年から80宅地売却済だが、直近では平成16年の分譲が最後。購入者のほとんどは町外からで、農業経営者は皆無。 	<p>第2回研究会</p> <p>【Aチーム】 ・4町民とも、まだ“まおい”を共有していないのではないかと。 ・子育てなどでは、広域連携が必要。 ・住民は、利便性より、エコロジー、口ハスなどの面での満足に期待している。 ・移住者への情報提供、コミュニティサポートなどで、雇用を創出できないかと。</p> <p>【Bチーム】 ・移住者は、若い世代か、今の生活に満足している中高年世代。 ・子供たちの遊び場が必要だが、行政が困りを作るのではなく、自然を活かした生涯学習の場にもなる遊び場を。 ・各町、町内会ごとにある公園などを新しい考えのもとで位置づけ、再整備考していくことが必要。 ・環境循環の面で、ゴミ環境、焼却施設の建設などが必要。</p> <p>【Cチーム】 ・まおい地域に移住される方々を、おもてなしの気持ちを持って迎えるべき。 ・地域住民が地域を知ることが重要で、それぞれのまちの広報誌を共有(自治会に1枚配る)することなどが必要。 ・公共施設や商店街の連携は重要だが、まず、公共施設の連携に取り組むべき。 ・点在する資源をつなぐ方策(マーク、看板、PR方法など)を考えるべき。 ・“まおい”という地域ブランド、イメージの確立が必要で、認知度が高まるようにしていかなければならない。</p> <p>【Dチーム】 ・4町での交流が少ない、お互いを知らないため、きっかけをつくらなければならない。 ・長沼・栗山のスキー場、由仁の温水プールなどの公共施設の相互利用を進める中で情報交換が図れないかと。 ・スポーツ少年団などの組織の広域で相互利用を通じて、いろいろなニーズがみえてくるのではないかと。循環バスの運行、景観の活用など。まずはきっかけとして公共施設の相互利用からはじめる。</p>	<p>長沼町(第1回研究会) 【官民協働】 ・期間はともあれ、試す期間が必要。ツアー、滞在体験などでは住民との協働が必要。人と人とのつながりを行政が行って移住を支えるということが必要。</p> <p>-----</p> <p>由仁町(第1回研究会) 移住には、季節移住・週末移住など多様なスタイルが想定され、1町ですべて対応するのは困難で、まおい地域で連携していくと可能では。多様な移住ニーズにあった紹介窓口の統一、情報共有など。</p> <p>【官民協働】 ・建設業協会の中にマイホーム協会(建設業、造園業など)があり、移住者の問い合わせに対してタイアップして情報提供を行えるのでは。由仁町では優良田園住宅政策とタイアップしているので、広域でもできるのでは。</p> <p>-----</p> <p>栗山町(第1回研究会) 情報共有、意見交換など。</p> <p>【官民協働】 ・国や道がきっかけをつくってくれるが、移住体験は、地域が自ら行わねばならない。 ・HP上で移住者からの問い合わせを総合的に受け付けているが、地元不動産業も存在するので、まず町内で連携し、その後、広域で連携できれば。</p> <p>-----</p> <p>南幌町(第1回研究会) 住宅地を求めてくる人に対する(農家などの)空家情報を正確に伝えるしくみをつくる。 公営住宅の入居資格を広域でオープンにする 広域的な交通機関(4町シャトルバスなど)を充実させる。 移住してくる人のニーズ把握。 ひとつの問い合わせ窓口が必要。</p> <p>【官民協働】 ・グリーンツーリズムなどは行っていないが、育ちつつあるJAの女性部、商店の女性部などとの支援・協働。(ソフトとハードと双方で進めていく)</p>	<p>第2回研究会</p> <p>【Aチーム】 ・4町で連携して、公共施設の共通バス、店舗のスタンプ制度などにより、公共施設、レジャー施設の相互利用を進める。(商店街も含めて経済的なつながりもでてくる) ・4町で連携して、自転車、バス、シャトルバスなど、多様な手段とルートによる公共交通事業を進める。 ・4町で連携して、商業的な事業を展開する。 ・4町で連携して、民間資金を集めたファンド的なものをつくる。</p> <p>【Bチーム】 ・4町で連携して、民間活力を導入したゴミ処理プラントを整備する。そこから排出される熱量を利用して、ハウスや住宅団地に熱等を供給する。(近隣のごみも収集、雇用対策、環境、リサイクル)</p> <p>【Cチーム】 ・4町で連携した広報誌の活用(情報共有、公共施設の連携、4町交流) ・4町で連携した公共施設の共同指定管理 ・子どもや大人が参加した児童公園の再整備。</p> <p>【Dチーム】 ・4町で連携したスポーツ大会・文化事業への参加システム。 ・情報を共有化(会議の開催、記録のオープン、地元の人の書き込み)</p>
由仁町	<p>行政(第1回研究会) 住マスをもとに、まちなか・市街地に、既存住民を対象とした公営住宅の建替がメインで、民間住宅ストック活用補助も展開。移住者については、郊外の優良田園住宅で対応しており、今度も進めていきたいが、インフラ整備等が負担、支援が欲しい。教職員住宅は、農業研修生が利用(移住者利用は困難)</p> <p>住民(第2回研究会) 4町民にとって、まおい地域は、日常生活需要(病院、高校、温泉、パークゴルフなど)が充足する場で、この地域を1つの単位として考えていくべき。</p> <p>企業等(第2回研究会) 新築住宅は大手業者、地元業者はリフォーム。・優良田園住宅では、約20戸のうち、地元業者が2戸のみ受注。・ハウスメーカーの営業活動などは活発。</p>	<p>栗山町(第1回研究会) 働ける、動けるうちは丘陵地域に居住し、高齢になってまちなかに移住するという政策も必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み替えの提案などを不動産会社が行うことに期待。 ・例えば、商店街の空き地に、民間企業が主体で、高齢者向け住宅などをつくれないうか。 <p>-----</p> <p>南幌町(第1回研究会) コンパクトなまちづくりのため、郊外部に移住が進むとインフラ整備などが負担。景観や農地を求めて移住する人は、基盤整備区域外を求めることが懸念される。コミュニティの再生については、都市計画の観点でどうバックアップできるか。土地の代金が下がればニーズはあるので、下げるしくみが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの政策で83%が持ち家で、転勤のある勤労者世帯の民間賃貸住宅が少なく、既存ストックの活用方法が課題(相談窓口、家賃程度で戸建住宅が購入可能なしくみ)公住需要は多く、入居困難(5~6倍)で、抽選に外れた方の家賃補助、民間賃貸住宅建設促進なども課題。夕張太で、農地の再編を絡めて宅地開発・分譲を実施し、平成8年から80宅地売却済だが、直近では平成16年の分譲が最後。購入者のほとんどは町外からで、農業経営者は皆無。 	<p>第2回研究会</p> <p>【Aチーム】 ・4町民とも、まだ“まおい”を共有していないのではないかと。 ・子育てなどでは、広域連携が必要。 ・住民は、利便性より、エコロジー、口ハスなどの面での満足に期待している。 ・移住者への情報提供、コミュニティサポートなどで、雇用を創出できないかと。</p> <p>【Bチーム】 ・移住者は、若い世代か、今の生活に満足している中高年世代。 ・子供たちの遊び場が必要だが、行政が困りを作るのではなく、自然を活かした生涯学習の場にもなる遊び場を。 ・各町、町内会ごとにある公園などを新しい考えのもとで位置づけ、再整備考していくことが必要。 ・環境循環の面で、ゴミ環境、焼却施設の建設などが必要。</p> <p>【Cチーム】 ・まおい地域に移住される方々を、おもてなしの気持ちを持って迎えるべき。 ・地域住民が地域を知ることが重要で、それぞれのまちの広報誌を共有(自治会に1枚配る)することなどが必要。 ・公共施設や商店街の連携は重要だが、まず、公共施設の連携に取り組むべき。 ・点在する資源をつなぐ方策(マーク、看板、PR方法など)を考えるべき。 ・“まおい”という地域ブランド、イメージの確立が必要で、認知度が高まるようにしていかなければならない。</p> <p>【Dチーム】 ・4町での交流が少ない、お互いを知らないため、きっかけをつくらなければならない。 ・長沼・栗山のスキー場、由仁の温水プールなどの公共施設の相互利用を進める中で情報交換が図れないかと。 ・スポーツ少年団などの組織の広域で相互利用を通じて、いろいろなニーズがみえてくるのではないかと。循環バスの運行、景観の活用など。まずはきっかけとして公共施設の相互利用からはじめる。</p>	<p>長沼町(第1回研究会) 【官民協働】 ・期間はともあれ、試す期間が必要。ツアー、滞在体験などでは住民との協働が必要。人と人とのつながりを行政が行って移住を支えるということが必要。</p> <p>-----</p> <p>由仁町(第1回研究会) 移住には、季節移住・週末移住など多様なスタイルが想定され、1町ですべて対応するのは困難で、まおい地域で連携していくと可能では。多様な移住ニーズにあった紹介窓口の統一、情報共有など。</p> <p>【官民協働】 ・建設業協会の中にマイホーム協会(建設業、造園業など)があり、移住者の問い合わせに対してタイアップして情報提供を行えるのでは。由仁町では優良田園住宅政策とタイアップしているので、広域でもできるのでは。</p> <p>-----</p> <p>栗山町(第1回研究会) 情報共有、意見交換など。</p> <p>【官民協働】 ・国や道がきっかけをつくってくれるが、移住体験は、地域が自ら行わねばならない。 ・HP上で移住者からの問い合わせを総合的に受け付けているが、地元不動産業も存在するので、まず町内で連携し、その後、広域で連携できれば。</p> <p>-----</p> <p>南幌町(第1回研究会) 住宅地を求めてくる人に対する(農家などの)空家情報を正確に伝えるしくみをつくる。 公営住宅の入居資格を広域でオープンにする 広域的な交通機関(4町シャトルバスなど)を充実させる。 移住してくる人のニーズ把握。 ひとつの問い合わせ窓口が必要。</p> <p>【官民協働】 ・グリーンツーリズムなどは行っていないが、育ちつつあるJAの女性部、商店の女性部などとの支援・協働。(ソフトとハードと双方で進めていく)</p>	<p>第2回研究会</p> <p>【Aチーム】 ・4町で連携して、公共施設の共通バス、店舗のスタンプ制度などにより、公共施設、レジャー施設の相互利用を進める。(商店街も含めて経済的なつながりもでてくる) ・4町で連携して、自転車、バス、シャトルバスなど、多様な手段とルートによる公共交通事業を進める。 ・4町で連携して、商業的な事業を展開する。 ・4町で連携して、民間資金を集めたファンド的なものをつくる。</p> <p>【Bチーム】 ・4町で連携して、民間活力を導入したゴミ処理プラントを整備する。そこから排出される熱量を利用して、ハウスや住宅団地に熱等を供給する。(近隣のごみも収集、雇用対策、環境、リサイクル)</p> <p>【Cチーム】 ・4町で連携した広報誌の活用(情報共有、公共施設の連携、4町交流) ・4町で連携した公共施設の共同指定管理 ・子どもや大人が参加した児童公園の再整備。</p> <p>【Dチーム】 ・4町で連携したスポーツ大会・文化事業への参加システム。 ・情報を共有化(会議の開催、記録のオープン、地元の人の書き込み)</p>
栗山町	<p>第1回研究会 住マスをもとに、公営住宅の建替とともに、開発公社による、まちなかの小規模分譲宅地供給、郊外(丘陵地域)の分譲宅地供給、を推進。(南幌町と同じく)教員住宅を活用した体験住宅の整備を計画。宅地分譲は、町内の分家、定年退職者された町外者などに、まちなかで年間約10宅地(世帯)の実績があり、重点課題となっている。</p> <p>住民(第2回研究会) 買い物は不便を感じていないが、余暇やレジャーは他の3町の施設を活用。・高齢者は病院などの面で不便であり、将来的な問題。</p> <p>企業等(第2回研究会) 町内には耐雪ハウスがあるが、町外のハウスメーカーに決める人も多い。・公共事業が減少し、建設業も厳しくなる中、行政サービスのアウトソーシングなど、町でできる多角化事業の拡大を希望。</p>	<p>栗山町(第1回研究会) 働ける、動けるうちは丘陵地域に居住し、高齢になってまちなかに移住するという政策も必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み替えの提案などを不動産会社が行うことに期待。 ・例えば、商店街の空き地に、民間企業が主体で、高齢者向け住宅などをつくれないうか。 <p>-----</p> <p>南幌町(第1回研究会) コンパクトなまちづくりのため、郊外部に移住が進むとインフラ整備などが負担。景観や農地を求めて移住する人は、基盤整備区域外を求めることが懸念される。コミュニティの再生については、都市計画の観点でどうバックアップできるか。土地の代金が下がればニーズはあるので、下げるしくみが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの政策で83%が持ち家で、転勤のある勤労者世帯の民間賃貸住宅が少なく、既存ストックの活用方法が課題(相談窓口、家賃程度で戸建住宅が購入可能なしくみ)公住需要は多く、入居困難(5~6倍)で、抽選に外れた方の家賃補助、民間賃貸住宅建設促進なども課題。夕張太で、農地の再編を絡めて宅地開発・分譲を実施し、平成8年から80宅地売却済だが、直近では平成16年の分譲が最後。購入者のほとんどは町外からで、農業経営者は皆無。 	<p>第2回研究会</p> <p>【Aチーム】 ・4町民とも、まだ“まおい”を共有していないのではないかと。 ・子育てなどでは、広域連携が必要。 ・住民は、利便性より、エコロジー、口ハスなどの面での満足に期待している。 ・移住者への情報提供、コミュニティサポートなどで、雇用を創出できないかと。</p> <p>【Bチーム】 ・移住者は、若い世代か、今の生活に満足している中高年世代。 ・子供たちの遊び場が必要だが、行政が困りを作るのではなく、自然を活かした生涯学習の場にもなる遊び場を。 ・各町、町内会ごとにある公園などを新しい考えのもとで位置づけ、再整備考していくことが必要。 ・環境循環の面で、ゴミ環境、焼却施設の建設などが必要。</p> <p>【Cチーム】 ・まおい地域に移住される方々を、おもてなしの気持ちを持って迎えるべき。 ・地域住民が地域を知ることが重要で、それぞれのまちの広報誌を共有(自治会に1枚配る)することなどが必要。 ・公共施設や商店街の連携は重要だが、まず、公共施設の連携に取り組むべき。 ・点在する資源をつなぐ方策(マーク、看板、PR方法など)を考えるべき。 ・“まおい”という地域ブランド、イメージの確立が必要で、認知度が高まるようにしていかなければならない。</p> <p>【Dチーム】 ・4町での交流が少ない、お互いを知らないため、きっかけをつくらなければならない。 ・長沼・栗山のスキー場、由仁の温水プールなどの公共施設の相互利用を進める中で情報交換が図れないかと。 ・スポーツ少年団などの組織の広域で相互利用を通じて、いろいろなニーズがみえてくるのではないかと。循環バスの運行、景観の活用など。まずはきっかけとして公共施設の相互利用からはじめる。</p>	<p>長沼町(第1回研究会) 【官民協働】 ・期間はともあれ、試す期間が必要。ツアー、滞在体験などでは住民との協働が必要。人と人とのつながりを行政が行って移住を支えるということが必要。</p> <p>-----</p> <p>由仁町(第1回研究会) 移住には、季節移住・週末移住など多様なスタイルが想定され、1町ですべて対応するのは困難で、まおい地域で連携していくと可能では。多様な移住ニーズにあった紹介窓口の統一、情報共有など。</p> <p>【官民協働】 ・建設業協会の中にマイホーム協会(建設業、造園業など)があり、移住者の問い合わせに対してタイアップして情報提供を行えるのでは。由仁町では優良田園住宅政策とタイアップしているので、広域でもできるのでは。</p> <p>-----</p> <p>栗山町(第1回研究会) 情報共有、意見交換など。</p> <p>【官民協働】 ・国や道がきっかけをつくってくれるが、移住体験は、地域が自ら行わねばならない。 ・HP上で移住者からの問い合わせを総合的に受け付けているが、地元不動産業も存在するので、まず町内で連携し、その後、広域で連携できれば。</p> <p>-----</p> <p>南幌町(第1回研究会) 住宅地を求めてくる人に対する(農家などの)空家情報を正確に伝えるしくみをつくる。 公営住宅の入居資格を広域でオープンにする 広域的な交通機関(4町シャトルバスなど)を充実させる。 移住してくる人のニーズ把握。 ひとつの問い合わせ窓口が必要。</p> <p>【官民協働】 ・グリーンツーリズムなどは行っていないが、育ちつつあるJAの女性部、商店の女性部などとの支援・協働。(ソフトとハードと双方で進めていく)</p>	<p>第2回研究会</p> <p>【Aチーム】 ・4町で連携して、公共施設の共通バス、店舗のスタンプ制度などにより、公共施設、レジャー施設の相互利用を進める。(商店街も含めて経済的なつながりもでてくる) ・4町で連携して、自転車、バス、シャトルバスなど、多様な手段とルートによる公共交通事業を進める。 ・4町で連携して、商業的な事業を展開する。 ・4町で連携して、民間資金を集めたファンド的なものをつくる。</p> <p>【Bチーム】 ・4町で連携して、民間活力を導入したゴミ処理プラントを整備する。そこから排出される熱量を利用して、ハウスや住宅団地に熱等を供給する。(近隣のごみも収集、雇用対策、環境、リサイクル)</p> <p>【Cチーム】 ・4町で連携した広報誌の活用(情報共有、公共施設の連携、4町交流) ・4町で連携した公共施設の共同指定管理 ・子どもや大人が参加した児童公園の再整備。</p> <p>【Dチーム】 ・4町で連携したスポーツ大会・文化事業への参加システム。 ・情報を共有化(会議の開催、記録のオープン、地元の人の書き込み)</p>
南幌町	<p>第1回研究会 都市マスの4つの目標に基づき、まちづくりを展開。教員住宅の空き家を町営とし、移住促進体験用として2戸を確保。</p> <p>住民(第2回研究会) 【みどり野団地居住者】 ・(まおい地域は)子どもや若い世代にとって、遊ぶ場に乏しいため、広域的な公共施設の低料金での共通利用や自然環境体験プログラムなどがあれば。・みどり野団地は、子供会、老人会、福祉会などがあり、住みやすい。</p> <p>【中央居住者】 ・分譲されてから30年以上経過した古い住宅団地に居住しており、人口減少・高齢化・単身化が進行し、商店なども減少。・(まおい地域は)働く場所や企業が少ないが、千歳や苫小牧にも近く、農業や環境を軸に発展させるべきエリア。</p> <p>企業等(第2回研究会) 【建設業】 ・新築住宅の大半は町外のハウスメーカーが受注。・土木が専門だが、住宅公社や道などの格付けにより、直接受注が困難で、公共事業以外の新たな取り組みには着手できていない。</p>	<p>栗山町(第1回研究会) 働ける、動けるうちは丘陵地域に居住し、高齢になってまちなかに移住するという政策も必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み替えの提案などを不動産会社が行うことに期待。 ・例えば、商店街の空き地に、民間企業が主体で、高齢者向け住宅などをつくれないうか。 <p>-----</p> <p>南幌町(第1回研究会) コンパクトなまちづくりのため、郊外部に移住が進むとインフラ整備などが負担。景観や農地を求めて移住する人は、基盤整備区域外を求めることが懸念される。コミュニティの再生については、都市計画の観点でどうバックアップできるか。土地の代金が下がればニーズはあるので、下げるしくみが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの政策で83%が持ち家で、転勤のある勤労者世帯の民間賃貸住宅が少なく、既存ストックの活用方法が課題(相談窓口、家賃程度で戸建住宅が購入可能なしくみ)公住需要は多く、入居困難(5~6倍)で、抽選に外れた方の家賃補助、民間賃貸住宅建設促進なども課題。夕張太で、農地の再編を絡めて宅地開発・分譲を実施し、平成8年から80宅地売却済だが、直近では平成16年の分譲が最後。購入者のほとんどは町外からで、農業経営者は皆無。 	<p>第2回研究会</p> <p>【Aチーム】 ・4町民とも、まだ“まおい”を共有していないのではないかと。 ・子育てなどでは、広域連携が必要。 ・住民は、利便性より、エコロジー、口ハスなどの面での満足に期待している。 ・移住者への情報提供、コミュニティサポートなどで、雇用を創出できないかと。</p> <p>【Bチーム】 ・移住者は、若い世代か、今の生活に満足している中高年世代。 ・子供たちの遊び場が必要だが、行政が困りを作るのではなく、自然を活かした生涯学習の場にもなる遊び場を。 ・各町、町内会ごとにある公園などを新しい考えのもとで位置づけ、再整備考していくことが必要。 ・環境循環の面で、ゴミ環境、焼却施設の建設などが必要。</p> <p>【Cチーム】 ・まおい地域に移住される方々を、おもてなしの気持ちを持って迎えるべき。 ・地域住民が地域を知ることが重要で、それぞれのまちの広報誌を共有(自治会に1枚配る)することなどが必要。 ・公共施設や商店街の連携は重要だが、まず、公共施設の連携に取り組むべき。 ・点在する資源をつなぐ方策(マーク、看板、PR方法など)を考えるべき。 ・“まおい”という地域ブランド、イメージの確立が必要で、認知度が高まるようにしていかなければならない。</p> <p>【Dチーム】 ・4町での交流が少ない、お互いを知らないため、きっかけをつくらなければならない。 ・長沼・栗山のスキー場、由仁の温水プールなどの公共施設の相互利用を進める中で情報交換が図れないかと。 ・スポーツ少年団などの組織の広域で相互利用を通じて、いろいろなニーズがみえてくるのではないかと。循環バスの運行、景観の活用など。まずはきっかけとして公共施設の相互利用からはじめる。</p>	<p>長沼町(第1回研究会) 【官民協働】 ・期間はともあれ、試す期間が必要。ツアー、滞在体験などでは住民との協働が必要。人と人とのつながりを行政が行って移住を支えるということが必要。</p> <p>-----</p> <p>由仁町(第1回研究会) 移住には、季節移住・週末移住など多様なスタイルが想定され、1町ですべて対応するのは困難で、まおい地域で連携していくと可能では。多様な移住ニーズにあった紹介窓口の統一、情報共有など。</p> <p>【官民協働】 ・建設業協会の中にマイホーム協会(建設業、造園業など)があり、移住者の問い合わせに対してタイアップして情報提供を行えるのでは。由仁町では優良田園住宅政策とタイアップしているので、広域でもできるのでは。</p> <p>-----</p> <p>栗山町(第1回研究会) 情報共有、意見交換など。</p> <p>【官民協働】 ・国や道がきっかけをつくってくれるが、移住体験は、地域が自ら行わねばならない。 ・HP上で移住者からの問い合わせを総合的に受け付けているが、地元不動産業も存在するので、まず町内で連携し、その後、広域で連携できれば。</p> <p>-----</p> <p>南幌町(第1回研究会) 住宅地を求めてくる人に対する(農家などの)空家情報を正確に伝えるしくみをつくる。 公営住宅の入居資格を広域でオープンにする 広域的な交通機関(4町シャトルバスなど)を充実させる。 移住してくる人のニーズ把握。 ひとつの問い合わせ窓口が必要。</p> <p>【官民協働】 ・グリーンツーリズムなどは行っていないが、育ちつつあるJAの女性部、商店の女性部などとの支援・協働。(ソフトとハードと双方で進めていく)</p>	<p>第2回研究会</p> <p>【Aチーム】 ・4町で連携して、公共施設の共通バス、店舗のスタンプ制度などにより、公共施設、レジャー施設の相互利用を進める。(商店街も含めて経済的なつながりもでてくる) ・4町で連携して、自転車、バス、シャトルバスなど、多様な手段とルートによる公共交通事業を進める。 ・4町で連携して、商業的な事業を展開する。 ・4町で連携して、民間資金を集めたファンド的なものをつくる。</p> <p>【Bチーム】 ・4町で連携して、民間活力を導入したゴミ処理プラントを整備する。そこから排出される熱量を利用して、ハウスや住宅団地に熱等を供給する。(近隣のごみも収集、雇用対策、環境、リサイクル)</p> <p>【Cチーム】 ・4町で連携した広報誌の活用(情報共有、公共施設の連携、4町交流) ・4町で連携した公共施設の共同指定管理 ・子どもや大人が参加した児童公園の再整備。</p> <p>【Dチーム】 ・4町で連携したスポーツ大会・文化事業への参加システム。 ・情報を共有化(会議の開催、記録のオープン、地元の人の書き込み)</p>

(3) まおい地域における「住まいとまちづくりの連携」にむけた基本的な考え方

		まおい地域における「住まいとまちづくりの連携」にむけた基本的な考え方			
		まおい地域における 住まいとまちづくりの実態と課題	“住まいとまちづくりの連携”した 地域イメージ	広域連携による実現化方策 (制度・事業、推進体制)	最初の一步 (トリガープロジェクト)
ま お い 地 域	行政	<p>住まいの実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち家供給が中心である。 ・公営住宅の計画的な建替を進めたいが、財源に問題がある。 	<p>1 環境・景観・農業をテーマに、コンパクトに形成された安全・安心で活気ある既成市街地(4町の既成市街地の再編・充実) 高齢者・身障者や子育て世帯に配慮しつつ、まちなか・商店街などに、公共公益施設と一体的にバランスよく配置された(民間活力導入型の)賃貸住宅 移住希望者や高齢者などが求める新たなライフスタイルに対応できる魅力のある環境創出が図られたまちなか・商店街や大規模団地などの既成住宅市街地</p> <p>2 環境や景観とのバランスが図られ、長期的な維持管理などのルールを有する優良な田園型住宅地(長沼町:まおい丘陵エリア、由仁町:優良田園住宅地、栗山町:丘陵地)</p> <p>3 広域的な共通利用システムが構築された公共公益施設や公園・緑地・自然体験施設のネットワーク</p> <p>4 広域的なエリアにおけるキメ細かな移動と札幌圏・新千歳空港との連絡を支える交通システム</p> <p>5 既成市街地や田園型住宅地のマネジメント(維持管理、多様な移住支援、コミュニティサポートなど)を可能とする官民協働のワンストップサービスシステム</p>	<p>まおい地域を対象とした住宅・住環境再生計画と都市・地域再生計画の一体的立案</p> <p>公営住宅の入居資格の広域共通化 まちなか・商店街への借り上げ公営住宅(民活導入)の供給</p> <p>既成住宅市街地(まちなか・商店街、大規模団地など)におけるモデル地区再生事業の協働実施(各種団体の広域的連携、まちづくり交付金やファンドなど資金調達の広域的取組み等)</p> <p>優良な田園型住宅地を対象とした4町共通の環境・景観ビジョンと開発・維持管理ルールの制定</p> <p>4町連携型公共施設の指定管理者制度 4町における水と緑のネットワーク構想の策定と協働実施 スポーツ大会・文化事業への共通参加</p> <p>広域的な交通機関(4町シャトルバスなど)と連携したスローライフを支えるネットワークの整備(フットパス、サイクリングロード、ポートなど)</p> <p>広域連携型の移住体験事業 広域で連携した移住相談窓口(各種民間組織連携、HP統一、空家情報、相談情報、クチコミ情報など)の開設</p>	<p>研究会 ・モデルエリア ・各町1箇所 研究会 研究会</p> <p>研究会</p> <p>研究会</p> <p>研究会 研究会</p> <p>行政で検討 (研究会で確認) 行政で検討 (研究会で確認)</p> <p>有志で実施 行政対応 (研究会で確認)</p>
	住民	<p>まちづくりの実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトなまちづくりを目標としている。 ・既成市街地の魅力づくりに苦慮している。 			
	企業等	<p>田園環境の魅力を活用した宅地開発を進めている。</p> <p>住まいとまちづくりの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアによって、以下のような課題が顕在化している。 <p>1) 既成市街地における未利用地や既存ストックの増加(北海道住宅供給公社が開発したみどり野団地、商店街の空き地など:南幌町、栗山町ほか)</p> <p>2) 住宅地化が進むまおい丘陵地の景観・環境保全(長沼町)</p> <p>3) 優良田園住宅地の開発と長期的な維持・管理システムの構築(由仁町)</p>			

「研究会」:北海道開発局事業振興部都市住宅課が取り組む『住宅ビジョン支援事業』において、南々空知地域(4町)をモデル地域として設置が検討されている「まおいのすまいとまちづくり再生研究会」であり、平成18~20年度での取り組みが予定されている。

(4) 第1回研究会

1) 第1回「まおいの住まいとまちづくり再生研究会」結果概要

日時：平成19年1月17日(水) 13:00～15:10

場所：長沼町役場3階会議室

参加者(敬称略)

長沼町：田代、徳橋、池田、麻田

由仁町：北島、納口

栗山町：上島、本田

南幌町：笠原、伊藤、小林、大栗、森、草訳、嶋田

専門家：今野、中村、鈴木、太田

1 開会あいさつ(今野)

2 本事業の全体像と本プロジェクトの位置づけ(今野)

- ・本事業(南々空知地域のスローライフを満喫するロングスティ型移住ビジョンの策定)の全体像と本プロジェクト(まおい地域のスローライフを支える住まいとまちづくりプロジェクト)の位置づけについて説明・確認した。

3 「地域資源活用テーマコミュニティ育成プロジェクト」第1回WSの結果報告(中村)

- ・「地域資源活用テーマコミュニティ育成プロジェクト」第1回WSの結果を報告した。

4 意見交換(ファシリテーター：今野)

1) 各地域におけるテーマ別の実態と課題

- ・住まいづくり(住宅政策)、まちづくり(都市計画)、まちづくり(農村計画)の3テーマに関する各地域(4町)の実態と課題について、事前に依頼していたアンケート回答に沿って報告して頂き、内容を確認・協議した。

2) 今後につなげるべき取組み

- ・諸課題の解決にむけて、広域で取り組むべきと考えられるアイデアについて、事前に依頼していたアンケート回答に沿って報告して頂き、内容を確認・協議した。

3) 行政や関係機関における移住者コミュニティとの協働事業・政策・制度

- ・諸課題の解決にむけて、移住者コミュニティなど、地域住民と協働で取り組むべきと考えられるアイデア(協働事業・政策・制度)について、事前に依頼していたアンケート回答に沿って報告して頂き、内容を確認・協議した。

5 今後の進め方(今野)

- ・次回は、平成19年2月7日(水)に、地域住民や民間企業、各種関連団体の方々を交えて実施することを確認した。

6 閉会あいさつ(今野)

2) 第1回「まおいの住まいとまちづくり再生研究会」の様子



(5) 第2回研究会

1) 第2回「まおいの住まいとまちづくり再生研究会」結果概要

日時：平成19年2月7日(水) 13:00~15:20

場所：南幌町保健福祉総合センターあいくる あいくるホール(1F)

参加者(敬称略)

長沼町：住民(塚本)、産業(中館)、行政(田代、徳橋、池田、麻田)

由仁町：行政(納口、関沢)

栗山町：行政(上島、本田)

南幌町：住民(高島、城宝)

産業(内田)

行政(伊藤、大栗、森、草沢、嶋田)

専門家：今野、中村、鈴木、太田

1 開会あいさつ(今野)

2 本事業の全体像と本プロジェクトの位置づけ(今野)

- ・本事業(南々空知地域のスローライフを満喫するロングスティ型移住ビジョンの策定)の全体像と本プロジェクト(まおい地域のスローライフを支える住まいとまちづくりプロジェクト)の位置づけについて説明・確認した。

3 第1回研究会の結果報告(今野)

- ・「まおい地域のスローライフを支える住まいとまちづくりプロジェクト」第1回研究会の結果を報告した。

4 意見交換(ファシリテーター：今野)

1) 住まい手の方々の生活実感に基づく居住地区の実態と課題

- ・南幌町の住民である高島さんと城宝さん、長沼町の住民である塚本さん、由仁町の住民代行の納口さん、栗山町の住民代行の上島さんから、住まい手の方々の生活実感に基づく居住地区の実態と課題について確認・協議した。

2) 建築・建設産業や生活サービス産業の方々の業務実感に基づくまおいエリアの実態と課題

- ・長沼町の中館さん、南幌町の内田さん、由仁町の住産業代行の納口さん、栗山町の産業代行の上島さんから、建築・建設産業や生活サービス産業の方々の業務実感に基づくまおいエリアの実態と課題について確認・協議した。

3) まおい地域における「住まいとまちづくりの連携」にむけた基本的な考え方(案)について

- ・長沼町の塚本さん、南幌町の高島さんと城宝さん、長沼町の中館さん、南幌町の内田さんの中

心に、4町の職員が複合した4つのテーブルをつくり、まおい地域における「住まいとまちづくりの連携」にむけた基本的な考え方(案)について確認した。

“ 住まいとまちづくりの連携 ” した地域イメージ

- ・“ 住まいとまちづくりの連携 ” した地域イメージ(案)に対して、4つのテーブル別にワークショップを行い、発表した。

広域連携による実現化方策(制度・事業、推進体制など)

最初の一步(トリガープロジェクト)

- ・まず、国土交通省北海道開発局の小町谷課長から、国土交通省(北海道開発局)による支援について紹介された。
- ・その後、広域連携による実現化方策(案) 最初の一步(トリガープロジェクト)に関して、4つのテーブル別にワークショップを行い、4つのテーブル別および住民・産業の方々から提案を頂いた。

5 今後について(今野)

国土交通省(北海道開発局)による支援について(資料4)

- ・前述のとおり。
第2回委員会(南々空知地域ロングスティ型移住ビジョン策定委員会)について
- ・第1~2回の「まおいの住まいとまちづくり再生研究会」の結果については、第2回委員会において報告することとした。

6 閉会あいさつ(今野)

2) 第2回「まおいの住まいとまちづくり再生研究会」の様子



2. 長期遊住・移住システム検討プロジェクト

(1) 本プロジェクトの目的と実施方法

1) プロジェクトの目的

本プロジェクトは、全国の都市住民が、まおい地域における田園型スローライフを体感することにより、将来的なリピーター、さらには移住者になってもらうことを視野に入れ、4町連携による移住構想の立案と社会実験を行うことを目的とする。

特に、季節移住や連泊交流、継続的な通い交流などといった「地域のファンをつくり、将来的に南々空知地域への移住につながる」ことや、「それを担う民間エリアマネジメント組織を設立する」ことを重視する。

2) プロジェクトの実施方法

展開方針

) 移住・交流等資源の整理と共有化

- ・各町が有する移住・交流等につながる交流資源（観光資源、下記参照）を整理し、各町役場の移住担当者による地域（4町）全体の移住・交流等資源情報の共有・提供・連携を図る。

移住・交流等資源案：

- ・賃貸可能な公営住宅、販売宅地、連泊が可能な施設
- ・連泊や通いによって楽しめる滞在メニュー（観光資源）
- ・既に移住した先輩方のナマの声、移住・交流受け入れにおいて世話役になってくれる人材やグループ（中館さん等）

) 移住・交流等の1ストップ型受け入れ体制と情報発信システムの検討

- ・地域全体としての移住・交流等1ストップ型受け入れ体制と、「移住・交流等資源」の情報発信システムを検討する。

パンフレットの作成等にとどまらず、ムーバブルタイプのブログサイト等を構築して、自己増殖・更新する情報発信の仕組みを検討する。（参考：<http://sotetsu.net/>）

展開イメージ

) 移住・交流等資源の整理（1回）

) 行政担当者との協議による「(仮称)まおい移住システム研究会」の構成メンバー候補の検討・公募・選出・委嘱

) ワークショップの実施（1月17日、2月7日、2回、10～20名/回×2回）

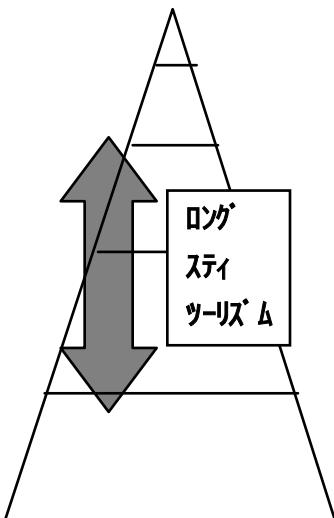
a) 「移住・交流等資源」の提示、意見交換・共有化

b) 「移住・交流等の1ストップ型受け入れ体制と情報発信システム」(案)の提示、意見交換

) 「長期遊住・移住システムの基本的な考え方」のとりまとめ（3月）

(2) 研究会における協議結果のまとめ

		4町共通	南幌	長沼	由仁	栗山
	まおいスローライフ“実感”プログラム	<p>【プログラム例】 [夏] <『栗山町ハサハツ里山計画実行委員会』の活動への参加をメインに、各町で取り組んでいる里山再生、ホタル再生の活動、農作業体験等と一緒に取り組むプログラム> 田園地帯への滞在・居住をイメージしたプログラム～域外からの参加者の地域活動への参加意識も問える [秋] <南幌のキャベツ収穫+キムチ作り、長沼の農作業+ドブ作り、栗山の農作業+コロッケ・清酒やお菓子づくり、由仁の農作業+ハーブ関連商品づくり等の産業体験&試食プログラム> 地域に根ざす企業や産業を体験することで、まおい地域への理解を深めてファンになってもらう</p>				
春	<p>山菜採りをメインに山歩き。まおいの遊歩道×自然の豊かさ×温泉×グルメ</p> <p>サクラ・クロッカス花見+花いっぱい植える運動参加+4町焼肉大会(ジギスカン・ホルモン・和牛)+酒・キムチ</p>		<p>南幌神社のサクラ 「花市(1日開催)～ビューローの駐車場」 温泉ヨコに白鳥 アスパラ狩り</p>	<p>花いっぱい運動(1日決めて全町で花植え) 東庭園とまおい温泉のサクラ 水をはった水田景観 芝サクラ 小麦畑 まおい山の山菜採り</p>	<p>由仁ガーデン(20万株のクロッカス)</p>	<p>花いっぱい運動(1日決めて全町で花植え) 小林酒造・谷田製菓の老舗祭り</p>
夏	<p>果樹・いちご収穫+オートランドキャンプ+自転車で南幌ビューロー朝市等を回る</p> <p>4町それぞれの美味しいアイスメぐり</p>	<p>仮想盆踊り大会 ホタル再生には各町が取り組んでいる</p> <p>100km遠足(とおあし)～ウルトラマソン 全国から250人参加:栗山町中心</p>	<p>フラワーロード 朝市(毎週日曜日～ビューローの駐車場) 農作業体験、生産者との交流</p>	<p>長沼温泉西側でのホタル再生の取り組み 稲の花畑、ひまわり畑(ハーベスト) ソバやイモの花畑 「ゆめまつり」～田舎イメージ満点 MTBの大会、自転車競技大会 直売所～道の駅以外にもたくさんあり まおいオートランドのキャンプ場 果樹もぎ取り体験～サクランボ、イチゴ</p>	<p>百足祭り～6人×200m。景品をかけた、障害物レースや親子レース等の各種競技あり</p> <p>三川地区のイチゴ狩り 10数軒のオープンガーデンの美しさ</p>	<p>北限の国蝶「オムラサキ」が御大師山公園で保全、飼育施設もある</p> <p>100km遠足 栗山夏祭り、花火、全国から太鼓の10グループ終結</p>
秋	<p>各種スポーツ施設でのスポーツ体験・交流</p> <p>4町特産品朝市対決</p> <p>収穫体験サイクリング～最後に調理して食べる cf.端野カレーマソン</p>		<p>キャベツマソン キャベツ等の収穫体験 農作業体験、生産者との交流</p>	<p>直売所～道の駅以外にもたくさんあり 「夕焼け市」大道芸もあり ～商店街で5～9月毎月第4土曜日開催</p>	<p>ブドウ狩りなどの果物狩り体験 体験農園での収穫体験</p> <p>秋祭りでのみこしかつぎ～全道から担ぎ手が集まる</p>	<p>天満宮祭は道内最後の秋祭りとして全道から屋台が大終結。盛大な全道一の夜店!</p> <p>栗山マソン 秋祭りでのみこしかつぎ～全道から担ぎ手が集まる 由仁の後栗山へ!</p>
冬	<p>かまくら+星空+郷土料理+温泉</p> <p>写真スポットご案内ツアー</p>	<p>11月3日は、4町文化祭</p>	<p>ハーブ研究会(JA女性部)～味噌・豆腐押し花クラブ、和紙作り、しめ縄、ハーブティ、ドライフラワーアレンジメント・・・体験メニューたくさん 冬祭りのアイスキャンドル ビニールハウス内でのパークゴルフ</p>	<p>星空 スキー場 まおい運河の水鳥・野鳥 防風林の霧氷</p>	<p>草の文化伝承会～わら細工教室 …しめなわとぞうり ホウキも有名</p>	
通年	<p>地元の達人、生き字引訪問、交流</p> <p>工場見学めぐり</p> <p>各町の目玉を持ち寄って、1ヶ所に集まって楽しむことを順繰りに。。</p>	<p>アート協会の40名くらいの会員～陶芸・ガラス・木工芸・美術等</p> <p>そば打ち体験 サイクリング</p>	<p>スポーツ盛ん～ゴルフ、カート、クレー射撃、神社に土俵 釣り～親水公園・温泉 鯉、ブラックバス、ワカサギ まおい地域の発展を支えた夕張鉄道の資料が町資料館にある 稲藁和紙作りの行灯を作る 山崎企画課長</p> <p>貸し農園 360度の平野パノラマ 子供向けの「匠祭り」～大人版を!</p>	<p>「まおい田園学校構想」あり カルガ農法による有機米生産者、リンゴ等の果樹園、珍しい花の花弁農家グループ、味噌作りグループ 石狩平野に沈む夕日がキレイ 丘陵からの夜景、自衛隊機チカラの展望 パークゴルフのハシゴができる 道の駅、ハイジ牧場 長沼温泉は源泉かけ流し グリーンツーリズム協議会の取り組み</p>	<p>年に数回、北大生が来て「星を見る会」をやっている 果樹園のオーナー制度あり</p> <p>ソバ打ち同好会～道内で取得可能な催行段位を持っている人がいる</p>	<p>『栗山町ハサハツ里山計画実行委員会』が20年間の活動実績～クワカ、ホタル、川辺、・・・子供たちや道職員の研修利用あり</p> <p><おかめ納豆>の全道流通分全ての納豆工場見学</p>
グルメ	<p>名物大盛丼、グルメ食べ歩き</p>		<p>「二合半」の花ノ湖のちゃんこ 「ハート&ハート」のキャベツ天丼</p> <p>今秋より「笹だんご」デビュー! ～加工センターとハーブ研究会の合作 キャベツキムチ、ぎょうざ</p>	<p>「いわき」の赤字丼 「ほくほく庵」 「ハーベスト」「レストラン」等のファームレストラン 3軒の農家が作っているドブ作り 「長沼アイス」、「アイチュランド」 「パティスリー カイ」のブルーベリーケーキ ジギスカン8社のそれぞれの味 「コーヒー考房」 「くり木」の日替わり創作ランチ</p>	<p>「東京ホルモン」前回WSで満場一致の推薦あり 「東千歳バーベキュー」の、焼き方にうるさい90歳のおばあちゃん</p> <p>「ファームヤード」～農家レストラン 「牛小舎アイス」のまぜまぜアイス</p>	<p>「藤の家」のカレーそば 「廬山」のあんかけ焼そば 由仁の食用ホタルキを使ったお菓子が「シ・サワト」にある</p> <p>「名取屋」のホルモン鍋定食 三富屋のコロッケ ワインづくりの中井さん 機能性タマネギ「さらさらレッド」</p>
企業・住宅 その他	<p>住宅見学、企業訪問めぐり</p>		<p>企業～<スリーピー>、<サッポロ麵匠>、<キャベツキムチ加工工場> 元教職員住宅を整備した移住体験用の町営住宅2戸あり 不動産会社なし</p>	<p>住宅供給を考える上では「ハウジング会」という組織がある 不動産会社なし</p> <p>麻田農園のブルーベリー DHC工場稼働スタート 温泉熱を活用した融雪口がダイナミック 民間の移住支援組織「暮らっせ長沼」</p>	<p>「南空知移住サポート」という民間グループがある 東京由仁会の事務局長が成城学園にいて、毎年子供たちを連れて来ている。スキ指導員も手伝っている 建設業界の下部組織に「マイホーム協会」がある 不動産業者は賃貸業者のみ 優良田園住宅の2期実績</p>	<p>栗山素材を活かしたコロッケの<北海道三富屋> <小林酒造>の清酒と酒まんじゅう <谷田製菓>のきびだんご、大嘗館 不動産会社が唯一ある</p> <p><木の城たいせつ>～見学会開催</p>

		まおい地域における 長期遊住・移住システムを考える上での 実態と課題	まおい地域における「長期遊住・移住システム検討」における基本的な考え方		
			地域住民と域外からの来訪者がともに楽しむ ロングステイ・ツーリズムの展開	広域連携による実現化方策 (制度・事業、推進体制)	最初の一步 (トリガープロジェクト)
まおい地域	地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域において、移住してきてくれるならどんな人でも歓迎したいといった意識はない。コミュニティへの融合意思や、その人となりをきちんと見極めてから、「地域にとって役立つ人」を新しい仲間として受け入れたい・・・というのが本音。 ● 上記の傾向は特に農家、農地を伴う移住希望者の受け入れ時に顕著。地主として、あとで地域から翬をかうような相手への売買は難しい。 ● 他方、移住希望者やその候補となる人たちは、まおいの田園地帯としての魅力や、その広々とした土地、散居型の住宅のイメージに憧れてくる人が多い。 ● 単純に、都市部に比較して安い地価を期待し、大きめの家が欲しい、土地・農地が欲しいという人もいる。 ● 長期滞在の仕組みや、地元住民との交流の仕掛けは、まだできていない。 	<p>1 展開における基本コンセプトは、左記の実態と課題を受け、地域住民と域外からの来訪者が交流し、ともに楽しみ、リピーターとなり、長期滞在者となり、いずれは移住者に昇華するといった「観光交流移住」の流れを具現化することとおく。</p> <p>＜移住・定住者＞</p> <p>＜長期滞在者＞</p> <p>＜リピーター＞</p> <p>＜地域住民との交流者＞</p> <p>＜いわゆる観光入込客＞</p>  <p>2 ターゲットを絞り込んだロングステイ・ツーリズム戦略に地域をあげて取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> × 大人数の通過型・窓外見るだけ型 × 少人数の滞在型・参加体験・交流型 × 一回来たらそれっきり <ul style="list-style-type: none"> ● 何度も来訪するリピーター まおいならではの地域資源（自然・風土・景観・農業・食文化等）にふれあうことや、地域住民との交流に興味・関心のあるターゲットを対象とする。 <p>大げさに言えば、まおい地域への受け入れ審査の機能も兼ねる</p>	<p>A まおい広域の地域資源の再整理・編集・まおい広域における「スロ・ライフ」を実感できる資源・プログラムをピックアップし、整理、再編集して共有する。</p> <p>【スローライフを実感できるプログラム】とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民にとってはあたりまえでも、域外からの来訪者にとって魅力的な資源 ・地域住民の普段の暮らしのおすそ分け ・地域住民も一緒に楽しめるプログラム ＜～「地元学」で言う地域の宝物＞ <p>B 地域資源を編集してのプログラム・商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まおい広域として、再編集・共有した資源を、線、面につなぎ、組み立てることで、魅力的な交流プログラムを構築する。持続発展可能な実施体制（まおいオープン大学のプログラム化？）商品化等を図る。 <p>C 地域資源を編集しての情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まおい地域としての資源、交流プログラムを域外へ情報発信し、より広範囲からの興味・関心者を引き付ける。 <p>D まおい広域としての地域住民のロングステイツーリズム受け入れ体制・風土を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● まずは、『まおい』オープン大学のようないイベントの交流プログラムとして展開する。 ● 同時に、まおい地域のより深い楽しみ方の紹介として情報発信を開始する。ブログ等を活用して、永続的に、自然増殖する仕組みを考える。
	移住希望者				

(4) 第1回研究会

1) 第1回「長期遊住・移住システム検討プロジェクト」結果概要

日時：平成19年1月17日(水) 15:20~17:00

場所：長沼町役場3階会議室

参加者(敬称略)

長沼町：田代、徳橋、池田、麻田 民間：「暮らせ長沼」中館

由仁町：北島、納口

栗山町：上島、本田

南幌町：笠原、伊藤、森、嶋田

専門家：今野、中村、鈴木、太田

1 本事業の全体像と本プロジェクトの位置づけ(鈴木)

- ・本事業(南々空知地域のスローライフを満喫するロングスティ型移住ビジョンの策定)の全体像と本プロジェクト(「長期遊住・移住システム検討プロジェクト」)の位置づけについて説明・確認した。～直前開催の「まおい地域のスローライフを支える住まいとまちづくりプロジェクト」WSにおける説明と重なる部分は省略した。

2 「長期遊住・移住システム検討プロジェクト」のベースとなるコミュニティ・ツーリズムの考え方について(ファシリテーター：鈴木)

- ・「長期遊住・移住システム検討プロジェクト」のベースとなるコミュニティ・ツーリズムの考え方について協議した。

3 アンケート内容の共有(ファシリテーター：鈴木)

- ・事前に依頼したアンケート内容に基づき、以下の事項に関して協議した。

1) 「観光・交流プログラム」への活用検討

- ・各町の「観光・交流プログラム」に活用できそうな資源を、地域産業、人材、グループ、美味しいもの、まつり、といった側面から共有した。

2) 広域での取り組みについての検討

移住者にとって行政区は関係ないため、お互いにメリットを持ちながら連携していくことが必要かつ有効なのではないか、という結論に至った。

3) 移住政策に取り組んでいく上での課題の検討

不動産情報を提供する体制が現状では十分ではない、移住希望者が望む移住場所や価格に、受け入れ側とのギャップがある、受け入れ側としても不安がある、などの意見が出された。

4) このプロジェクトを進めていく上での方向性の確認

- ・地域の資源を十分に活用した、交流・滞在型のプログラムを広域で展開するコミュニティツーリズムを進め、スムーズな移住受け入れに結びつけていくことが望ましいことを確認した。

4 今後の進め方（鈴木）

- ・次回は、平成19年2月7日（水）に、地域住民や民間企業、各種関連団体の方々を交えて実施することを確認した。

5 閉会あいさつ（鈴木）

2)「長期遊住・移住システム検討プロジェクト」第1回ワークショップの様子



(5) 第2回研究会

1) 第2回「長期遊住・移住システム検討プロジェクト」結果概要

日時：平成19年2月7日(水) 15:00~17:00

場所：南幌町保健福祉総合センターあいくる あいくるホール(1F)

参加者(敬称略)

長沼町：塚本、中館、田代、徳橋、池田、麻田

由仁町：納口、関沢

栗山町：上島、本田

南幌町：村松、石川、森、草沢、笠原、伊藤、嶋田

専門家：鈴木、今野、中村、太田

1 本プロジェクトの位置づけ(鈴木)

- ・今後の継続は担保されていないが、「まおい大学」のプログラムへの取り入れや移住フェアでの情報発信で利用するなど、今後も継続していくことに努めることを確認した。

2 ワークショップ

1) 前回シートへの記述追加

- ・前回の内容をまとめた「別紙シート」に、各グループで不足の資料を書き込んでもらった。

2) 「まおいスローライフ“実感”プログラム」の作成

- ・シートに書き込んだ内容をもとに、季節ごとの「まおいスローライフ“実感”プログラム」をつくり、グループごとに発表を行った。

3 ワンストップの総合窓口、情報発信の仕組み、実感プログラム運用体制などについて

- ・地域に住むいろいろな人が一箇所に投稿できるブログサイトなどを作成しては、という意見が出た。

4 閉会あいさつ(鈴木)

2)「長期遊住・移住システム検討プロジェクト」第2回ワークショップの様子



3. 地域資源活用テーマコミュニティ育成プロジェクト

(1) 本プロジェクトの目的と実施方法

1) プロジェクトの目的

本プロジェクトは、当初、“まおい地域における新旧住民の交流を広げる”ことを目的とした内容で進める予定であったが、4町からの新旧住民に参加して頂き、2回で交流を深めることは難しいと判断し、“4町の移住者相互の交流を深め、テーマコミュニティの可能性を探る”ことを目的にすることとした。

2) プロジェクトの実施方法

手段

地域資源を活かした「食」を通じて交流を深めるとともに、それぞれのコミュニティでの問題課題や、テーマコミュニティの方向性について意見を交換する会を、2回開催した。

地域の食を通じて交流を深めてもらうため、1回目は「鍋」を食べながら意見交換を行う「まおい鍋の会」、2回目はお菓子とお茶を頂きながら意見交換を行う「まおい茶会」として開催した。

対象

まおい地域に移住してきた、住民の方々に集まっていたき、加えて、4町の職員にも参加していただいた。

進め方

1回目：「まおい地域におけるテーマコミュニティを考える上での実態と課題」の把握

1回目では、「コミュニティでの問題・課題」というテーマで、「移住者の視点で、移住の経験を活かせるテーマコミュニティは何か」をさぐった。

2回目：「まおい地域におけるテーマコミュニティにおける基本的な考え方」の検討

1回目の結果として、「情報提供」についての意見が多く出たため、2回目では、移住者を中心に進めていくことが可能なテーマコミュニティの一つとして、「移住者や移住検討者への情報提供、情報共有」に関しての意見を伺った。

(2) 開催結果

1) 第1回研究会

「まおい地域におけるテーマコミュニティを考える上での実態と課題」の把握
を行うために開催した「まおい鍋」の開催結果

日 時：平成18年12月8日(土) 17:30~19:30

場 所：南幌町保健福祉総合センター「あいくる」(1F) 調理実習室

参加者：26名(まおい地域の住民15名、職員9名、専門家2名)

<内訳>

由仁町6名(住民4名 職員2名)、南幌町10名(住民7名 職員3名)、長沼町6名(住民3名 職員3名)、栗山町2名(住民1名 職員1名)、専門家(今野、中村)

当日のスケジュール：

- 17:30~18:15 はじめの挨拶(今野)
今日の進行説明(中村)
自己紹介(参加者)
「まおい鍋」の説明(南幌町松村工場長)
「まおい鍋」の試食開始
- 18:20~19:30 鍋を食べながら意見交換会
(今野・中村の進行。フリートーク)
まおい地域に移住して「助かった点(有難かった点)」「困った点」
「困った点の解決策として思いつくこと」の3つの区分で、ホワイトボードに整理。



1回目「まおい地域におけるテーマコミュニティを考える上での実態と課題」の把握

「移住者の視点で、移住の経験を活かせるテーマコミュニティは何か」を探るため、まおい地域でのコミュニティを通じて感じる「良かった点」と「困った点(とその解決策)」を話しあった。

良かった点、困った点など、具体的な感想・意見が出るなか、

実態として、

行政の移住政策のもとに宅地が提供され移住してきた人と、みずから移住場所を探し、移住してきた人では、その受け止め方や行政に対するサービスの求め方にも差があることがわかった。

移住者には大きく分けて2パターン。「行政の移住政策によって場を与えられ、移住してきた人」と「みずから移住場所を探し、移住してきた人」。

しかし、**課題**としては

両者の共通意見として、移住PRに比べて、移住者が求めている情報がまだまだ不足しているという感想が多くあげられた。

そして、**その理由**としては、

行政も含め地元の人では重視していない情報でも、移住者にとっては知りたい・共有したい情報であるなど、提供内容とニーズに差が見られることがわかった。

「みずから移住場所を探し、移住してきた人」でも、「過剰なサービスは求めないが、改善の余地はある」という意見があったように、ニーズの深さは違えども、「情報量の不足」はいずれの移住者も感じている。

さらに、**解決策**として、

行政からだけの情報発信ではなく、地元からの情報、移住者からの情報など、様々な立場からの情報が必要で、移住者が情報提供にもっと参画することが必要という意見も出ました。

行政・住民の協働によって取り組みを進めないと、まおい地域の良さは伝わらないし、住民も、移住の取り組みを傍観してしまう。



移住者が共通して抱える課題は「地域の情報不足」
移住者の視点で、移住の経験を活かせるテーマコミュニティは、
「移住者や移住検討者にへの情報提供、情報共有」に関わる（つながる）取り組みである。

2) 第2回研究会

「まおい地域におけるテーマコミュニティにおける基本的な考え方」の検討
を行うために開催した「まおい茶会」の開催結果

日 時：平成 19 年 1 月 26 日（金） 18：00～20：00
場 所：由仁町・健康元気づくり館 2 階 創作作業室
参加者：25 名（まおい地域の住民 14 名、職員 9 名、専門家 2 名）

<内訳>

由仁町 6 名（住民 4 名 職員 2 名） 南幌町 8 名（住民 5 名 職員 3 名）
長沼町 7 名（住民 4 名 職員 3 名） 栗山町 2 名（住民 1 名 職員 1 名）
専門家（今野、矢野）

その日のスケジュール：

18：00～20：00 はじめの挨拶、今日の進行説明、「茶会」メニューの説明（中村）

<メニュー>

由仁町「ハーブガーデン」のハーブティ
栗山町「シ・サワット」のケーキ、
長沼町「珈琲考房」の珈琲



18：15～20：30 お茶を飲みながら意見交換会
（中村の進行。フリートーク）

まおい地域の移住に関して

「必要と思われる情報」「情報を伝える方法として」「体験を企画する上で」の3つの区分で、ホワイトボードに整理。

2 回目：「まおい地域におけるテーマコミュニティにおける基本的な考え方」の検討

まおい地域における「テーマコミュニティ」は、さまざまな可能性が考えられるが、ここでは、1 回目の結果を受けて、移住者の視点で、移住の経験を活かせるテーマコミュニティとして支持された「移住者や移住検討者にへの情報提供、情報共有」についての基本的な考え方を協議し、まとめを行った。

【内容について】

求められる情報の視点は多様であり、移住を検討する側の身になって、幅広い視点から考えていくべきである。たとえば、

移住を検討する時点でほしい地域の基本情報（行財政、宅地建設に関わる住民負担・・・）

地元の人を重視しない、交通や立地に関する情報（バスのルートや時間、近隣地域まで含めた店や各種機関の立地・・・）

移住してすぐ知りたい、周辺地域の情報（環境保全の取組、条例で禁止されている行為・・・）

移住後、高齢にともなってほくなる情報（医療・福祉・介護、中心地への住み替え・・・）

などが考えられる。

【体制について】

移住先を探している人から見れば「まおい地域」は一つの地域であり、4つの町が個々に情報提供していたら、求める側もそれぞれに問い合わせなければならない。内容と同様、移住者の視点で利便性の高い、情報提供を行う体制にしていくべきである。そのためには、

まおい地域を構成する自治体相互の連携

（行政に依存・一任するのではなく）行政と住民（民間）との連携

地元の人と移住者との連携

なども、更に深めていかなければならない。

【手段、方法について】

現時点では、各町のHPや窓口を通じての情報提供にとどまっている場合が多いが、よりまおい地域の魅力をアピールし、さらには、“まおい”に触れたり、体験できる機会を増やしていくべきである。たとえば、

まおい地域の総合的な情報が得られる「居住情報センター」の設置（行政・地元（民間）・移住者がそれぞれ情報を持ちよる、役場に設置ではなくまちなかに・・・）

実際住んで検討してもらおう「おためし居住」の企画（四季折々の、長めに体験できる、高齢の方も参加しやすい・・・）

「移住者を対象」ではなく「移住者も対象」である地域の体験企画を通じて情報を提供（地域の良さを味わえる、楽しめる企画、移住だけでなく定住につながる企画・・・）

企画運営に負担がかからない情報発信（まおい地域の暮らしについてのブログ集・・・）

などの方法も考えられる。

【はじめの一步について】

「行政と住民が協働で取り組むことができる」「幅広い参加者を促すことができる」「企画・運営に負担がかからない」というような視点から考えると

「まおい地域」の不動産（離農地含む）に関する情報の共有、一体的な提供（2回目で提案された「居住情報センター」の設置も視野に入れた）

まおい地域で暮らす人々がそれぞれ書き綴る、ブログなどの総合リンクページの開設（今回の各種プロジェクトに携わった方々の協力も得ながら）

地元の人と移住者がともに参加し楽しめる、地域の良さを味わえる企画の開催（「長期遊住・移住システム検討プロジェクト」で検討されたまおい地域の資源を取り入れた）

などが考えられる。

4 複合型地場産業担い手育成プロジェクト

(1) 本プロジェクトの目的と方法

1) プロジェクトの目的

まおい地域における様々な資源(人・物・技術)を活用し、田園型ライフスタイル産業とでもよぶべき新産業を創造するため、「(農業や加工、食や観光などを対象とした)地域のビジネス・コミュニティのリーダーによるコミュニティとネットワークづくり(まおい田園ビジネス・クラスターづくり)」を目的とした交流会(サロン)を開催する。(2回/年)

2) プロジェクトの実施方法

ワークショップの実施(1月17日、2月7日)

) 交流会(サロン)

自己紹介

話題提供(地場産業の現状と振興上の課題)

ビジネス講演会(地域産業振興マネジャー)

意見交換(まおい地域における地場産業の現状と振興上の課題の整理)

) 交流会(サロン)

自己紹介

話題提供(地場産業の現状と振興上の課題)

ビジネス講演会(地域内リーダー)




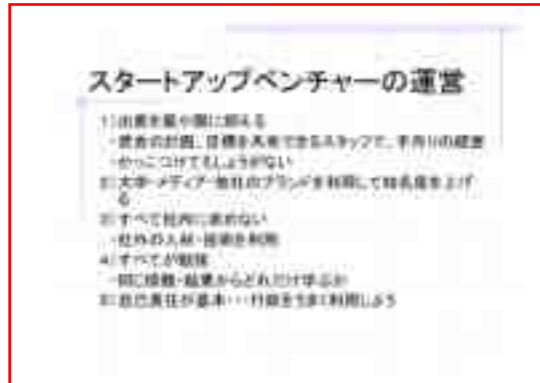
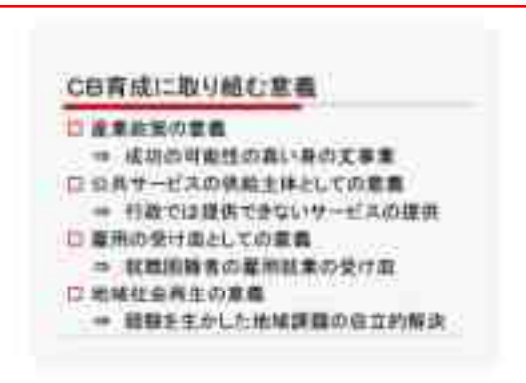


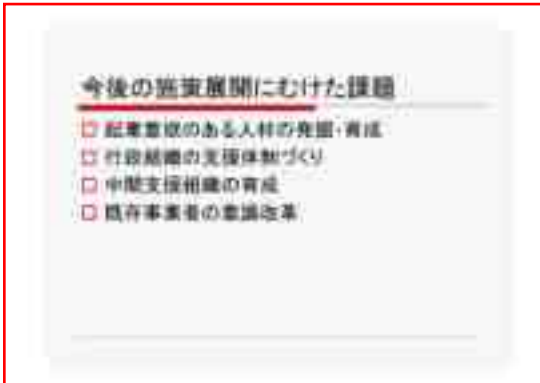
意見交換(農業や加工、食や観光などを対象とした、地域のビジネス・コミュニティを考える資源情報の共有)

ワークショップの対象

) 交流会(サロン): まおい地域4町の行政職員(産業振興、企画担当など)

) 交流会(サロン): 地域住民(産業関係者含む)、まおい地域4町の行政職員(産業振興、企画担当など)

(2) 交流会(サロン)における協議結果のまとめ

	【講演】	【意見交換・ワークショップ】	【専門家の視点から】
地域における起業の可能性について	 	 	<p style="text-align: center;">「まおい」でビジネスをする 商品サービスを開発すること</p> <p>気づいていないところに商品やサービスのチャンスが転がっている?かも。</p> <p>自分が当たり前と思っていることでも、ビジネスアイデアに繋がることもあるかも。</p> <p>北海道の人、その地域の人が開発、扱った方が 良い商品があるかも。</p> <p>北海道にしかない、商品や習慣、この地域に しかない商品や習慣・歴史があるかも。</p>
地域における起業支援について	   	<p>1 まおい地域における「地域資源活用型キャラメル商品」アイデア検討を通じた地域シーズ・市場ニーズの学習 メタボリック・キャラメル(栗山町) ・「新鮮野菜、酒」健康志向マーケット どぶろく・キャラメル(長沼町) ・「無農薬米100%」20歳をすぎた大人 キャベツキムチ・キャラメル(栗山町) ・「キャベツキムチ」体脂肪を燃焼したい方 砂利キャラメル(由仁町) ・「砂利の形、長いも、ほおずき、しいたけ」地域限定</p> <p>2 まおい地域における「複合型地場産業担い手」候補 栗山町 ・後藤さん((株)志援社長) 増田さん(家具メーカー オークランド)、岡本さん((有)植物育種研究所) 南幌町 ・東ふさおさん(夫婦) 村松さん(加工センター) 農業法人ほなみ、よしなりさん(スリービー社長) 元木ひろ子さん、沢名さん(二合半社長)、白倉ユリ子さん(なごやかグループ)、山崎さん(町役場職員) 由仁町 ・井上さん(滝上町から移住。由仁ガーデンの初代園長として「ハーブのあるまちづくり」の基礎作り)、井村さん(体験農園の管理)、高瀬さん(元郵便局長、郵便事業のほか、積極的に地域活動) 長沼町 ・増田ときこさん(「漬物村」の村長)、阪良子さん(「未楽溜」代表)</p> <p>3 まおい地域における広域連携による制度構築について 札幌に近いということのメリット活用と地域主導の制度運用 地域総体の活性化策としてのコミュニティビジネス支援 産業・教育・移住などの分野が連携した制度構築 地域外の専門家と連携した支援事業の運用</p> <p>4 具体的な取り組みのために ・取り組みテーマ(雇用創出など)キャッチフレーズ(「めざせ北のシリコンバレー」など)の明確化 ・この地域で、同じ目標を持つ人々のニーズ把握</p>	<p>もっと「まおい」のことを知ろう!</p>

【講演】 地域における起業の可能性について
岡本 大作 さん(植物育種研究所)

スタートアップベンチャーの運営

- 1) 出費を最小限に抑える
 - ・資金の計画、目標を共有できるスタッフで、手作りの経営
 - ・かっこつけてもしょうがない
- 2) 大学・メディア・他社のブランドを利用して知名度を上げる
- 3) すべて社内に求めない
 - ・社外の人材・技術を利用
- 4) すべてが勉強
 - ・同じ情報・結果からどれだけ学ぶか
- 5) 自己責任が基本・・・行政をうまく利用しよう

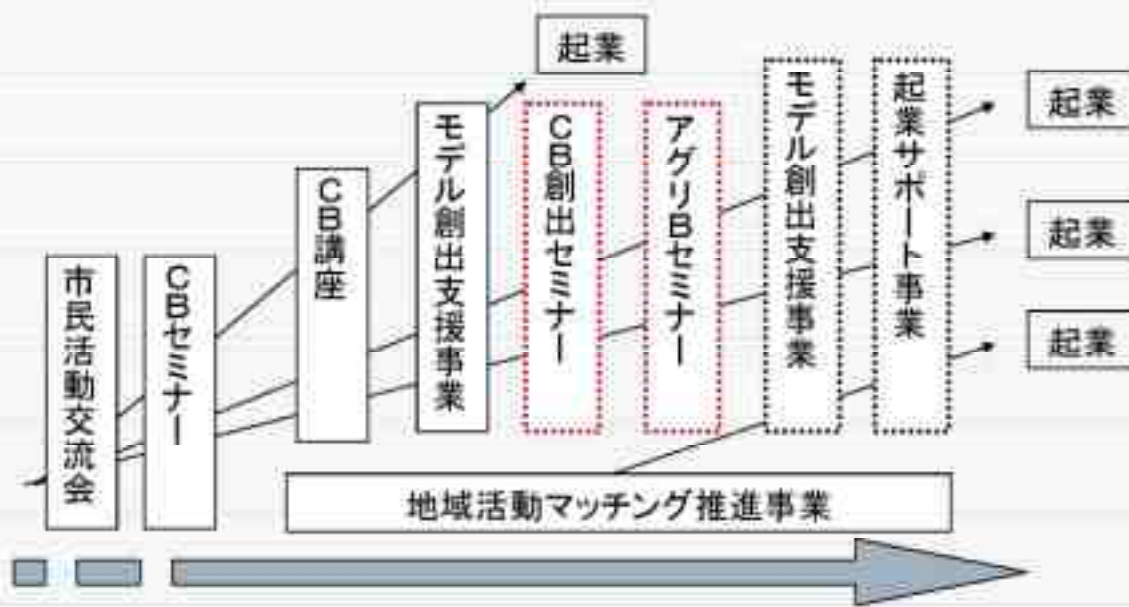
サロン参加者による
「複合型地場産業担い手サロン」
の開設

まおいオープン大学の
1 講義として準備組織

定常的開催へ



事業の流れ



4 町連携による
「地場産業担い手支援事業」
の実施

4 町の既存施策
国・道の既存施策

広域パッケージ展開へ

【講演】 地域における起業支援について
中西 章司 さん(石狩市役所)

(4) 第1回交流会(サロン)

1) 第1回「複合型地場産業担い手育成プロジェクト」交流会(サロン)の結果概要

日 時：平成19年1月17日(水) 18:00~20:00

場 所：栗山町カルチャープラザ「Eki」2階A研修室

参加者(敬称略)

長沼町：田代、徳橋、池田、麻田

由仁町：北島、納口、関澤、若林

栗山町：山本、水上、谷口、上島

南幌町：砂田、渡部、細川、田中、嶋田

専門家：今野、中村、太田

1 説明(太田)

「複合型地場産業担い手育成プロジェクト」の説明

2 先進地域の取組みについて

) 講演：「起業支援の取り組み」(石狩市企画財政部地域活力政策室 中西章司氏)

石狩市について(歴史ほか)

地域活力政策室について

コミュニティビジネス(CB)について

CB育成事業について

CBモデル採択事業について

コミュニティレストランについて

今後の課題について

) 質疑応答

) まおい地域における「複合型地場産業担い手」候補に関するワークショップ

まおい地域で活躍する産業の担い手とそのビジネス内容等について、4町での情報共有を行った。

2) 第1回交流会(サロン)の様子



(5) 第 2 回交流会 (サロン)

1) 第 2 回「複合型地場産業担い手育成プロジェクト」交流会 (サロン) の結果概要

日 時 : 平成 19 年 2 月 7 日 (水) 18:00 ~ 20:00

場 所 : 栗山町カルチャープラザ「 Eki 」 2 階 A 研修室

参加者 (敬称略)

長沼町 : 中館、塚本、田代、徳橋、池田、麻田

由仁町 : 安達、井上、若林、納口、関澤

栗山町 : 後藤、増田、山本、谷口、本田、上島

南幌町 : 村松、東、砂田、渡部、細川、田中、嶋田

専門家 : 太田、鈴木、今野、中村

1 説明 (太田)

「複合型地場産業担い手育成プロジェクト」の説明

2 先進地域の取組みについて

) 講演 : 「小さなベンチャーが挑戦する地域ブランド」

((有) 植物育種研究所 岡本大作氏)

なぜタマネギか？

なぜ種子か？

なぜ北海道栗山町か？

タマネギで地域ブランドを目指して

地域と企業 (ベンチャー) の関係

) 質疑応答

) まおい地域における「ビジネスモデル」を考えるワークショップ

まおい地域にある地域資源をつかって展開可能なビジネスを考えるトレーニングを行った。

2) 第2回交流会(サロン)の様子

